

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390103051		
法人名	株式会社 夢眠ホーム		
事業所名	グループホーム 夢眠くまもとにし		
所在地	熊本県熊本市西区城山下代3-2-6		
自己評価作成日	令和5年12月16日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来ることは自分で行き、出来ない事は職員がお手伝いし、役割を持って助け合いながら利用者と職員が共同生活を送っています。毎月季節のは壁紙を利用者主導で作成し、季節を感じていただいています。また、調理レクを定期的に行い、食材を見て、食材を触り、料理を匂い、調理の音を聞き、食事を味わい、五感を刺激し、人間らしく暮らせるよう支援している。また、医療機関と連携し、24時間365日いつでも急変に対応出来るような体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者とその人らしい暮らしに寄り添う支援、医療体制も充実し、「人間らしい尊厳のある生活を支援」する取組みに努めています。入居者の生活は一人ひとりに応じたケアを実践されており、職員面談では「入居者のためを考えると自分(職員一人ひとり)のスキルが必要」であると、職員一丸となり向上に臨まれている様子がうかがえました。理念の見直しをされ、何よりも入居者を第一に、どうしたら入居者が幸せになれるか、入居者の望みが叶うかを職員間での共有に深めています。コロナ禍でありながらも近隣の散歩を楽しみ、近くの小学校に花見に出向く等、「普通の」生活が営まれている様子を嬉しくうかがいました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年の外部評価では、理念が分かりにくいところのご指摘を受け、その後はみんなが分かりやすい理念に改善し、分かりやすい場所に掲示し共有を図っている。	法人の思いを基に、「分かりやすく」を念頭に理念を検討し、施設理念を策定した。今年度は理念をもとに職員研修を行い、「入居者第一」「入居者の幸せのため」を職員間で考え、理念の共有と実践につなげてきた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩にて近所の方々との交流を図ったり、運営推進会議にて地域住民との交流や情報交換を行っている。	今年度は散歩等日常的な外出を再開し、住民との関わりも見られる。運営推進会議で地域役員の方との情報交換を行っている。コロナ禍で地域行事等が開催されなかったりするなど、つきあいが少なくなっている状況が続いている。	コロナ禍の為に減少した、地域との交流の機会作りのため、事業所から地域への声掛け・情報発信などの取組を予定されているそうなので、それが実行されることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症研修の研修内容情報提供や研修資料を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で質疑応答を行い、時間が足りないくらい地域住民の方々から質問されたり、ご指導ご鞭撻を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では事業所の運営状況や取組み等の報告の他、地域との意見・情報交換を行っている。地域住民の方からは有意義な情報や専門的な意見も見られ、意見・アドバイスを参考にサービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ささえりあ三和の方に運営推進会議に参加していただき、グループホームの現状を伝え、相互協力している。	運営推進会議に地域包括支援センターよりの参加がある。市には日頃の報告・連絡・相談の他、避難確保計画の作成・変更、避難訓練計画・報告等、防災・防犯面での相談も密に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束委員会を行っている。やむを得ない場合は家族様と協議し、同意を得て熊本市に報告している。	ユニットリーダーと担当職員で3ヶ月に一回開催する身体拘束・虐待防止委員会では、前回の振り返り、要件の再確認、拘束解除に向けた検討、代替案の検討を行っている。年2回の研修会も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を実施している。また、虐待防止の研修も行き、虐待防止に努めている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を施設内で行い、権利擁護に対する理解をし、ケアに繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容を1から10までしっかりと説明し、不明点や質問なども分かりやすく説明出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に利用者様及びご家族様と話し、要望があった場合は職員間で共有し、苦情窓口を設置し、重要事項説明書にも苦情窓口で電話番号を載せている。	家族面会の際に職員より入居者の心身状況について写真を見ながら報告し、意見要望を確認している。コロナ禍により、家族会など家族とのふれあいのイベントなどが減少している。	コロナ禍の為に行えなかった家族会や家族参加のイベントなどの再開に向けた取組を予定されているそうなので、それが実行されることが期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り時に意見や提案を話し合い、共有し、より良い運営が出来るよう反映している。	週1回のカンファレンスや申し送り等、職員はいつでも意見を表すことができる。各ユニットの職員意見は事務所を通し施設長へ伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績が給与、やりがい等に反映するよう、管理者が職員の評価を行い、部長が管理者の評価を行い、その評価が稟議や会議で代表に伝わるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修を行い、その研修内容を全職員で共有し、スキルアップを図っている。また、オムツ交換や移乗が苦手な職員がいたら、積極的にアドバイスを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は熊本市西区の地域密着型サービスの交流会を行っていたが、コロナにて交流会が中止になり、現在は夢眠ホームグループの他事業所と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを行い、各個人の生活歴やニーズを把握し、それに応じて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていることや悩んでいることに耳を傾け、出来ることがあれば支援するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が出来るのか、何が出来ないのかを把握し、介護サービスだけではなく、地域資源や福祉用具の使用も検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台拭きや洗濯物を畳むのをお願いしたりして、共に生活する者同士、お互いが役割を持って暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒に過ごす時間を大切にしていたり、居室にてゆっくりと面会していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話を通じてこれまでの人間関係を保てるよう支援している。	コロナ禍により、従来のような支援は難しい状況であった。しかし、家族だけでなく、地域・親戚等からの面会依頼を受ける際には、面会方法を検討し、感染状況を確認しながらできるだけ面会できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入し、なるべくみんなに声掛けを行い、共有スペースでは利用者みんなを巻き込んで、大きな声で話している。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、「何かあれば気軽にいつでも相談してください」と伝え、これまでの関係が続くよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望する暮らしをお伺いし、なるべく希望に添えるよう検討し支援している。	入居者によっては「思い」を表すことが難しいこともあり、家族の意見も参考に日々の生活の中で汲取っている。職員の声掛け等で笑顔が見られた際には、申し送りで職員の言葉や場面を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様からの聞き取りの他に、サマリーなどを参考にしながら、フェースシートを作成し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、1日の過ごし方、ADL、本人が出来ること、出来ない事を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、職員間でカンファレンスを行い、出来ることは本人に行っていたり、出来ないことを支援し、それを介護計画に反映している。また、毎月モニタリングを行い、変化に気付けるよう努めている。	入居時の聞き取りにより作成した介護計画は、入居後の摂食状態や好み等を検討し、現状に即した計画とする。毎週カンファレンスを行い、入居者それぞれの問題点の検討について、職員間で意見を出し合っている。出し合った意見は一週間試行し、翌週再度検討を繰り返す。モニタリングは毎月行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎週カンファレンスを行い、気付いたことや利用者様の変化に応じてケアを検討し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療では対応できないような病状が発生し、家族が対応できない場合は、その病状に合わせた病院に付き添ったりして、その時のニーズに合わせて支援するよう努めている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にスーパーや病院が多数あり、散歩や外出が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、何かあったり、気になることがある場合はかかりつけ医に相談し、受診出来る体制を構築している。	入居時に訪問診療契約を結び、協力医をかかりつけ医としている。心身状態を医師に伝えることにより、薬の変更・他科受診の検討も行われている。専門医受診には家族協力による通院も見られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護専用の申し送りノートを設置し、情報の共有を図り、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、必要な情報交換、情報提供を行い、スムーズに退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療契約時に、延命の確認を行っているが、終末期に近づいたら再度確認している。看取りケアも行っており、関係者各位、連携して支援している。	希望により看取りケアも行っている。重度化した場合や終末期に近づいた際には医師と家族が話し合い、本人にとって一番過ごしやすいところはグループホームなのか、病院や他施設に行くのかなどを、話し合っ決めていくことがうかがえました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火訓練や避難訓練を実施し、災害に備えている。ハザードマップや避難ルートを掲示し、速やかに避難出来るよう努めている。	ハザードマップによると水害が懸念される地域であることから、洪水時の避難計画を作成している。災害に備え3日分の食糧備蓄を準備し、発電機の始動と併せ毎月確認を行っている。状況による3通りの避難経路を策定している。	事業所内で緊急時対応の研修を行う等、取り組んでいる様子が確認できました。マニュアルや手順書・計画の整備も進んでいるようですが、職員間の共有や緊急時の状況判断基準の共有等、より具体的な取組みも必要と考えます。

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの研修を行い、人生の先輩ということを中心に心掛け、声かけや言葉遣いに気を付けるよう努めている。	「接遇・倫理及び法令遵守」の研修を実施している。特に言葉遣いに配慮し、職員同士で気になる言葉を感じた時には直接本人に伝えている。日々の生活は入居者それぞれに合わせた支援を行っており、個々のペースで過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で洋服を選んでもらったりして、意思決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、利用者様本人のペースで行動していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やアクセサリ、洋服など、本人様に自由に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理レクを定期的に行い、利用者と職員と一緒に調理をし、調理の楽しさや美味しそうな匂いを感じていただき、楽しく食事をしていただけるよう支援している。	普段の食事は配食を取り入れている。誕生日にはケーキの飾りつけをしたり、レクレーションとして皆でどら焼きを作る等、楽しみを感じる機会作りも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記入している。また、毎月体重測定を行い、栄養士と連携し食事量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア声掛け、確認を行い、不十分な箇所や出来ない方は介助する。また就寝前には義歯洗浄剤に浸けて義歯を清潔に保っている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、時間ごとにトイレ声掛けや誘導を行い、排泄の確認、パンツの確認を行い排泄の失敗を防いでいる。排便があった場合には排便チェック表に記入し、排便コントロールをしている。	排泄状況を職員が確認し、パット・オムツ等の選定・変更が必要な際などは、カンファレンスで話し合っていて決めています。日々の排泄状況により医師へ相談し、薬の内容や変更等随時指示を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操やレクリエーションを行い、また毎日水分摂取量を記入、確認したり、下剤を使用しながら便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、浴槽にお湯を溜め、ゆっくりと入浴時間を堪能していただいている。施設の都合で曜日や時間が決まっており、個々の希望での入浴は行えていない。	入居者のその日の気分や体調も考慮し、週2～3回、午前中の入浴を基本としている。できるだけ浴槽での入浴を支援するが、難しい際にはシャワー浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、毎日同じ時間に就寝声掛けしているが、寝る時間は個々によりそれぞれ違う。必要な方には睡眠導入剤を使用し、気持ちよくぐっすり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、薬情にて処方されている薬を把握できている。症状に変化があれば、その都度薬剤師に相談し、その際は医師、看護師とも連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台拭きや洗濯物を畳んだりして、出来ることはご利用者様に行っていたり、役割を持って生活をしていただいている。ご家族様にはお菓子などの甘いものを持ってきていただき、気分転換を図れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や知人に協力していただき、戸外に出かけられるよう支援している。	家族協力も大きく、家族行事や買い物外出もみられる。近隣には季節を彩る花木も見られるため、散歩を兼ねた季節の花見にも出向いている。気軽な外出が難しい入居者もおられる時期には、個々に合わせ日常的な散歩等で外出の機会を持っている。	

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行によりお金の管理は出来ないご利用者様が多く、お金を所持しているご利用者様はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、または電話がかかってきた場合には、電話のやり取りが出来るよう間に入り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、季節や時期を感じていただいている。また、季節の壁紙を利用者様と共に作成し、壁に貼布している。	感染症予防のための換気をまめに行っている。壁には入居者の日々の様子の写真や製作物を毎月貼り替え、季節を感じるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ソファを設置し、いつでも座れる環境を整備している。テレビを見たり、談笑したりして自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた洋服や寝具、たんすなどを使用し、居心地よく過ごしていただいている。	馴染みのある用品が入居者にとって一番との思いを家族にも伝え、心が落ち着いて過ごすことができるよう取組んでいる。居室には家族の関わりが見え、入居者が好きな動物等が身近にうかがえるような部屋造りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所に大きく「トイレ」と表記し、自分で出来ること、分かることを活かし、自立した生活を支援している。また、今日の日付を黒板に書いたり、献立を貼布している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 GH夢眠くまもとにし
作成日 令和 6年 3月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	コロナ禍で減少していた地域との交流の場が減少している	地域との交流の場を増やしていく	散歩等の外出や運営推進会議での地域役員の方との情報交換を継続しながら、施設で行う行事への参加も促していく	1年
2	10	利用者や家族等が意見、要望を表せる機会を設け、運営に反映させる	利用者や家族の思いを汲み取り、充実した生活を支援していくと共に運営にも反映させていく	現在行ってきたことに加え、家族会の再開や家族参加のイベントの開催、ご意見箱の設置も検討していく	6カ月
3	35	災害対策に関する取り組みをより具体的にすることが必要	職員全員が的確な状況判断が出来るようにする	年2回の防災訓練以外に適宜マニュアル等の見直しを行い、職員全員が的確な状況判断が出来るように取り組んでいく	6カ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。